

9. 社会教育・生涯学習

成人学習支援者の力量形成に関する一考察 ——ふり返り（reflection）に注目して

倉持 伸江 KURAMOCHI Nobue お茶の水女子大学 大学院生

<はじめに>

社会教育・生涯学習の分野のみならず、NPOやボランティアが活動の一環として成人の学習を組織したり、看護教育など専門教育の分野や大学などの高等教育機関でも成人の学習者がますます増大しているように、成人の学習機会はますます多様に広がってきている。それにつれ、成人学習の支援者、ファシリテーター、講師なども多様な立場の人が担うようになってきている。このような人びとは教える内容としての専門性を持ってはいるが、学習支援者特に成人学習の支援者としての養成過程を経ずに実践活動を行っている場合がほとんどである。しかし、成人の学習を支援するという専門性が、成人学習支援者には求められるのではないだろうか。

そこで本報告では、成人の学習を支援するという実践的な力量を支援者はどのように身につけていくのかという問題を明らかにするために、成人教育者（adult educator）を、教える内容や教科ではなく、成人学習者の特性を活かし、成人の学習を支援するという専門性を持つ専門家ととらえ、成人教育者の専門職としての力量形成（professional development）の中で実践的なプロセスを通じた学習支援のための方法として注目されているふり返り（reflection）に着目し、北アメリカでの成人教育分野での研究をもとに検討し、成人教育者の力量形成にふり返りを取り入れる意味について考察することとする。

<成人教育者の力量形成におけるふり返り>

これまで力量形成の場と言えば短期間の研修であり、講義・講演、事例発表という方法で、役立つ実践的な知識・技術や先進事例・ノウハウの紹介ということが中心であったが、このような研修の内容・方法は新たな知識・技術を獲得することが主眼に置かれており、あらかじめ問題が設定されている。また、ワークショップなど参加・体験的な方法も取り入れられるようになってはきているものの、その目的はワークショップ技法の習得や一方的な講義より楽しいからといった理由で行われていることが多い。このように、成人教育者の力量形成のこれまでの方法では、新しい知識や技能の獲得に目が向けられており、実際の実践との結びつきが弱かった。

そこであらためて注目されるのが、ふり返りである。

「省察」や「反省」とも訳される **reflection** は、専門職の力量形成における重要な方法として考えられている概念である。1980年代以降アメリカ合衆国において医療、建築、福祉、経済などの分野の専門職教育に大きな影響を及ぼし、教育分野の理論と実践にも強い影響を与えた概念で、北アメリカでは成人教育の分野において注目されている。本報告では、そうした北アメリカで展開する成人教育者の専門職としての力量形成におけるふり返りの議論を「成人学習者として」と「実践家として」の2つの面から検討する。1つめは批判的ふり返り (**critical reflection**) であり、もうひとつは実践の中でのふり返り (**reflection-in-practice**) である。

<ふり返りの2つの意味>

1つめの批判的ふり返りとは、自分の考えや行動の基礎となっている前提を批判的にふり返ることであり、S.ブルックフィールドやJ.メジローなどが成人教育の新しいパラダイムとして提起した学習理論である。カナダの教育学者であるP.クラントンは、問題の背後にある前提、信念、価値観を問い直す学習のあり方は、成人教育者の力量形成にとって重要であると論じている。つまり、自らが「教えることについて学ぶ成人学習者」として成人教育者の力量形成を考えるとときに、有効であるという主張である。

実践の中でのふり返りは、D.ショーンによって提起された「省察的実践 (**reflective practice**)」の考え方と、「省察的実践者 (**reflective practitioner**)」のモデルに含まれるものである。ここで注目されるのは、行動についてのふり返り (**reflection-on-action**) だけでなく、行動の中でのふり返り (**reflection-in-action**) に着目されており、実践の中で自分自身をふり返り、実験を行い、行動を変えると考えられている点である。これは力量形成の場そのものを実践の中に置くという考え方でもあり、実践と力量形成を強く結びつける考え方といえる。

<提起>

1つめの批判的なふり返りについての検討は、研修などの力量形成で用いられる方法に対する提起を導くだろう。より支援者が自分自身を問い直し、批判的にふり返ることができるような、主体的に取り組める体験的な方法を取り入れる必要があるだろう。また、2つめの実践の中でのふり返りについての検討は、方法のみならず力量形成の場についての転換を促す。力量形成の場面は実践の中にあると考えると、職場集団の持つ意味はより重要になるだろう。